

小学3年生ぐらいになると「プライベートゾーン」を学びます。紙に描いた教材は、小1、小5の女の子とお母さん、小1、小5の男の子とお父さんの6人が並んでいて、水着を着けています。「どうしてみんな水着なのかな？」と私。すると、どの子も「恥ずかしい所だから」、「大事な所だから隠さないとダメなの」と、親から聞かされた通りに答えます。

「いいえ、私たちのからだには、特別恥かしい所も、特別大事な所もないよ。からだ全部が大事です」と私は話し、特に水着の下の部位、乳房、性器、肛門を中心とした部分は「私自身の、僕自身のもの」で、生涯、自分の意思に反して、また相手の意思に反して、見たり見せたり、触ったり触らせたりしてはいけない所だと、しっかりと印象付けます。これは、性被害に遭わないためにも、絶対に必要なトレーニングでもあるのです。

ある時、この勉強会に参加した小3の男子に、知らない男が近づいて「坊や、5百円あげるからチンチン見せて」と誘われた事件がありました。その子は「足りてます！」と叫んで

プライベートゾーンを学ぶ — 性被害に遭わないために —

逃げたそう。親から月額千円のお小遣いをもらっているのだから「足りてます」。拒絶の言葉がかわいいですね。

ところが、高校生ともなると、相手の意思に反してプライベートゾーンを侵し、望まない妊娠をさせてしまふ男子や、お小遣い欲しさに見知らぬ男にプライベートゾーンを提供する女子。夫婦間でも、暴力で妻にセックスを迫る夫がいます。ですから、早くから教える必要があるのです。「相手の意思に反してプライベートゾーンを侵してはならない」と。性教育は最も基本的な『人権教育』なのです。

